

商工会議所 L O B O (早期景気観測)

—平成13年10月調査結果—

(平成13年10月31日)

○調査期間：平成13年10月18日～24日

○調査対象：全国の396商工会議所が2622業種組合等にヒアリング
(内訳) 建設業 387 製造業 635 卸売業 237
小売業 753 サービス業 610

○調査項目：今月の売上・採算・業況等についての状況 (DI値を集計)
及び、業界として当面する問題等

※ DI値について

DI値は、売上・採算・業況などの各項目についての、判断の状況を表す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。したがって、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりを意味する。

DI = (増加・好転などの回答割合) - (減少・悪化などの回答割合)
業況・採算：(好転) - (悪化) 売上：(増加) - (減少)

日本商工会議所

本件担当：産業政策部 TEL: 03-3283-7844 / 7836
E-Mail: sangyo@jcci.or.jp

なお、本調査結果は、日商ホームページ (<http://www.jcci.or.jp>)でもご覧になれます。

【平成13年10月調査結果のポイント】

業況悪化さらに続く。一段と深刻化する先行き不安

○ 10月の景況をみると、全産業合計の業況DI（前年同月比ベース、以下同じ）は、卸売業、建設業および製造業でマイナス幅が前月水準に比べて拡大したことから、前月水準（▲58.2）よりマイナス幅が0.8ポイント拡大して▲59.0となった。昨年10月以降、業況の悪化傾向が続いている。また、全産業合計の業況DI▲59.0は、平成10年12月以来の低水準。前月の米国同時多発テロやマイカルの民事再生法申請等、依然として景気回復の材料が見当たらない状況が続いているうえ、狂牛病問題に関連した消費の落ち込みや先行き不安に起因する消費者心理の冷え込みが強まるなど、先行きに対する不安感が一段と深刻化しており、地域経済や足元の景況感は、さらに厳しい状況にある。

建設業では、一部で「公共工事の追加発注がある」（一般工事）との声もあるが、「公共工事・民間工事とも受注量の大幅減少が続いている。競合が厳しく、採算面においても大変深刻」（管工事）、「仕事を取ることができても採算が合わない」（一般工事）といった、採算面の悪化が改善されない状況を訴えるコメントや、「明るい材料なし。年末や春先についても仕事の増加は見込めない状況」（一般工事）といった、先行き見通しへの不安についてのコメントが多く寄せられている。

製造業では、IT関連を中心に、「9月以降、急激に売上減少。先行き全く不透明」（通信機械器具製造）、「雇用への影響が出てきている」（電子部品製造）、「米国のテロの影響により、北米向け輸出が減少」（時計・同部分品製造）、「テロ以降、商談の数自体が減っている」（産業用電気機械製造）など、厳しいコメントが多く寄せられたほか、「中国の鋳物業界の輸出攻勢は、数量的はもちろん、価格面でも大きな影響を及ぼし、転廃業する組合員が増加」（鉄素形材製造）、「外国製品増加により、国内向けの生産・販売が低迷」（金物類製造）といった外国製品との競合や、「仕事があっても、取引先の値引要求が強く、採算割れになる」（金属加工機械製造）といった採算面の厳しさを訴える声が多く寄せられている。

卸売業では、業況DIが前月水準から8.0ポイントもの大幅なマイナス幅拡大となり、平成元年4月の調査開始以来最低となる▲70.6を記録した。「狂牛病の影響で出荷が止まった状態」（総合卸）、「狂牛病の影響により焼肉関連の野菜取引が激減」（農畜産水産物卸）といった狂牛病問題に係るコメントが多く寄せられたほか、「建設関係資材の販売不振により、臨時・パート従業員に過剰感強まる」（総合卸）、「紙販売業で取引先の倒産等が相次ぎ、売掛金回収の問題が発生」（衣服・日用品卸）、「高齢化・後継者難等による閉店の加速、市場の遠隔地化による効率性の低下、採算性の悪化」（総合卸）との指摘もあった。

小売業では、前月に引き続き、「気温低下により秋冬物衣料が好調」との声がある一方で、販売価格や客単価の低下、近隣大型店の影響による売上減などの指摘や、「一番安定していた食品の売上が、狂牛病の影響から全般に下がり始めた」（各種商品小売）といった狂牛病の影響を訴える声もあった。

サービス業では、「設備投資の減少により、料率の値崩れがおき、採算が悪化傾向」（各種物品賃貸）、「派遣需要の冷え込みが広がる気配」（人材派遣）、「狂牛病問題により、特に焼肉店等は、来客数の大幅減で経営状態が厳しい」（食堂・レストラン）とのコメントが寄せられる一方で、「紅葉シーズンになり、平日でも前年度より入込み客数が多い」（旅館）、「海外旅行の手控えにより、国内旅行客が増加」（旅館、食堂・レストラン）といった声も多く寄せられた。

売上面では、卸売業、製造業および建設業でマイナス幅が前月水準に比べて拡大したことから、全産業合計の売上DIはマイナス幅が1.0ポイント拡大して▲51.8となった。採算面では、サービス業を除く全業種でマイナス幅が前月水準に比べて拡大したことから、全産業合計の採算DIはマイナス幅が0.5ポイント拡

大して▲53.1となった。

- 向こう3ヵ月(11月～1月)の先行き見通しについては、全産業合計の業況DI(今月比ベース)が▲52.2と、昨年同時期の先行き見通し(▲29.2)に比べて極めて厳しい見方となっており、先行きに対する不安が一段と深刻化している。
- 景気に関する声、当面する問題としては、米国同時多発テロの影響、狂牛病問題、デフレの進展、年末商戦に向けた個人消費の動向、などについての関心が高い。

【業況についての判断】

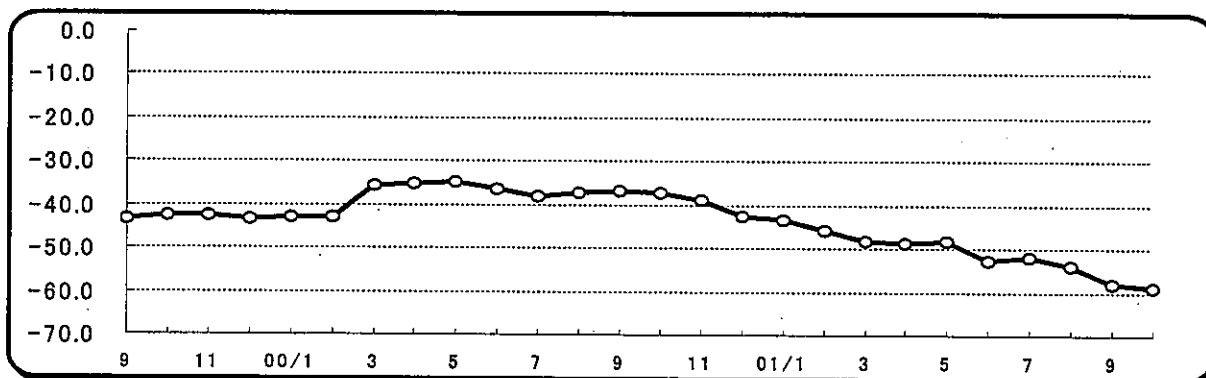
- 全産業合計の業況DI(前年同月比ベース)は、卸売業、建設業および製造業でマイナス幅が前月水準に比べて拡大したことから、前月水準(▲58.2)よりマイナス幅が0.8ポイント拡大して▲59.0となった。昨年10月以降、業況の悪化傾向が続いている。
- 向こう3ヵ月(11月～1月)の先行き見通しについては、全産業合計の業況DI(今月比ベース)が▲52.2と、昨年同時期の先行き見通し(▲29.2)に比べて極めて厳しい見方となっており、先行きに対する不安が一段と深刻化している。

業況DI(前年同月比)の推移

	13年 5月	6月	7月	8月	9月	10月	先行き見通し 11～1月
全産業	▲48.3	▲53.0	▲52.0	▲54.2	▲58.2	▲59.0	▲52.2 (▲29.2)
建設	▲59.3	▲62.2	▲60.6	▲60.6	▲64.8	▲69.5	▲62.8 (▲39.6)
製造	▲46.8	▲55.9	▲59.4	▲57.8	▲61.5	▲62.6	▲55.2 (▲18.8)
卸売	▲51.3	▲53.9	▲57.1	▲63.2	▲62.6	▲70.6	▲58.2 (▲32.9)
小売	▲47.6	▲49.9	▲44.2	▲51.1	▲53.0	▲53.0	▲49.3 (▲35.7)
サービス	▲41.9	▲46.3	▲45.2	▲46.3	▲54.5	▲50.5	▲42.5 (▲23.9)

※「先行き見通し」は当月に比べた向こう3ヵ月の先行き見通しDI
()内は昨年10月の先行き見通しDI<以下同じ>

《業況DI(全産業・前年同月比)の推移》



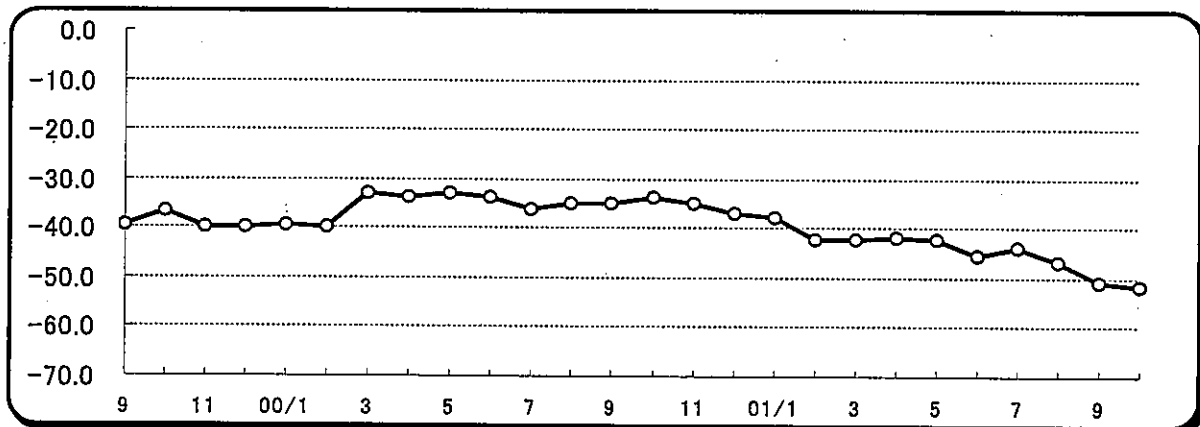
【売上（受注・出荷）の状況についての判断】

- 売上面では、卸売業、製造業および建設業でマイナス幅が前月水準に比べて拡大したことから、全産業合計の売上DIはマイナス幅が1.0ポイント拡大して▲51.8となった。
- 向こう3ヵ月（11月～1月）の先行き見通しについては、全産業合計の売上DI（今月比ベース）が▲43.5と、昨年同時期の先行き見通し（▲23.9）に比べて非常に厳しい見方となっている。

売上（受注・出荷）DI（前年同月比）の推移

	13年 5月	6月	7月	8月	9月	10月	先行き見通し 11～1月
全産業	▲42.5	▲45.6	▲44.1	▲47.0	▲50.8	▲51.8	▲43.5 (▲23.9)
建設	▲53.1	▲56.1	▲54.6	▲53.8	▲60.1	▲60.7	▲59.1 (▲37.6)
製造	▲38.9	▲46.7	▲49.7	▲50.0	▲50.9	▲53.9	▲47.3 (▲8.9)
卸売	▲46.2	▲47.9	▲56.5	▲56.1	▲55.1	▲61.4	▲41.8 (▲26.2)
小売	▲44.5	▲42.6	▲34.5	▲45.6	▲45.9	▲45.9	▲38.0 (▲32.5)
サービス	▲35.3	▲39.4	▲37.4	▲37.3	▲48.4	▲46.5	▲35.4 (▲19.5)

《売上（受注・出荷）DI（全産業・前年同月比）の推移》



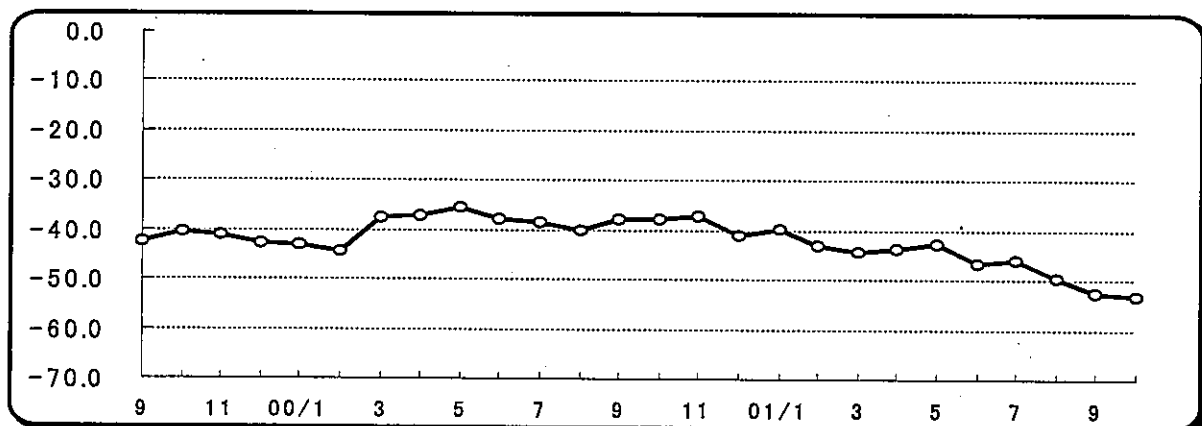
【採算の状況についての判断】

- 採算面では、サービス業を除く全業種でマイナス幅が前月水準に比べて拡大したことから、全産業合計の採算DIはマイナス幅が0.5ポイント拡大して▲53.1となった。
- 向こう3ヵ月(11月～1月)の先行き見通しについては、全産業合計の採算DI(今月比ベース)が▲44.6と、昨年同時期の先行き見通し(▲29.0)に比べて非常に厳しい見方となっている。

採算DI(前年同月比)の推移

	13年 5月	6月	7月	8月	9月	10月	先行き見通し 11～1月
全産業	▲42.8	▲46.8	▲46.0	▲49.5	▲52.6	▲53.1	▲44.6 (▲29.0)
建設	▲58.5	▲61.1	▲58.9	▲59.9	▲63.2	▲64.2	▲59.8 (▲42.0)
製造	▲43.8	▲50.5	▲55.0	▲56.1	▲59.4	▲59.5	▲48.6 (▲21.2)
卸売	▲38.5	▲49.1	▲52.2	▲56.1	▲52.4	▲58.2	▲44.4 (▲26.2)
小売	▲41.1	▲39.1	▲34.1	▲43.7	▲43.0	▲43.5	▲37.7 (▲33.2)
サービス	▲34.5	▲41.2	▲39.5	▲39.8	▲49.6	▲47.5	▲37.9 (▲24.8)

《採算DI(全産業・前年同月比)の推移》



(参考)

資金繰りD I (前年同月比) の推移

	13年 5月	6月	7月	8月	9月	10月	先行き見通し 11~1月
全産業	▲ 30.1	▲ 32.4	▲ 32.6	▲ 32.5	▲ 37.3	▲ 37.1	▲ 35.3 (▲ 21.9)
建設	▲ 39.2	▲ 43.2	▲ 40.9	▲ 44.1	▲ 42.8	▲ 43.2	▲ 41.1 (▲ 29.2)
製造	▲ 29.0	▲ 36.6	▲ 37.5	▲ 35.4	▲ 41.9	▲ 43.4	▲ 43.0 (▲ 18.1)
卸売	▲ 29.5	▲ 27.8	▲ 28.5	▲ 32.5	▲ 37.5	▲ 34.4	▲ 36.4 (▲ 18.1)
小売	▲ 26.0	▲ 26.8	▲ 27.3	▲ 26.3	▲ 30.2	▲ 28.9	▲ 28.4 (▲ 24.4)
サービス	▲ 29.2	▲ 26.6	▲ 27.8	▲ 27.0	▲ 35.1	▲ 34.3	▲ 30.2 (▲ 19.9)

D I = (好転の回答割合) - (悪化の回答割合)

【前年同月比D I】卸売業、小売業およびサービス業で悪化超感が弱まる。

【先行き見通しD I】全業種で、昨年同時期に比べ悪化超感が強まる見通し。

仕入単価D I (前年同月比) の推移

	13年 5月	6月	7月	8月	9月	10月	先行き見通し 11~1月
全産業	3.4	1.5	2.0	3.7	4.2	2.1	▲ 1.1 (▲ 2.0)
建設	6.1	6.5	3.3	7.0	2.2	5.0	▲ 0.4 (▲ 1.8)
製造	▲ 3.3	▲ 4.3	▲ 4.0	▲ 2.7	▲ 0.5	▲ 4.8	▲ 6.9 (▲ 3.8)
卸売	5.8	▲ 2.4	6.8	8.4	11.0	9.9	3.3 (6.1)
小売	9.2	7.7	9.7	12.9	10.0	7.7	4.6 (2.0)
サービス	1.0	▲ 2.1	▲ 3.9	▲ 4.8	0.8	▲ 2.0	▲ 3.8 (▲ 8.6)

D I = (下落の回答割合) - (上昇の回答割合)

【前年同月比D I】建設業を除く全業種で下落超感が弱まる。

【先行き見通しD I】建設業、小売業およびサービス業で、昨年同時期に比べ下落超感が強まる見通し。

従業員D I（前年同月比）の推移

	13年 5月	6月	7月	8月	9月	10月	先行き見通し 11～1月
全産業	▲ 12.8	▲ 15.7	▲ 15.6	▲ 14.4	▲ 15.7	▲ 17.2	▲ 16.3 (▲ 10.6)
建設	▲ 28.9	▲ 31.1	▲ 33.6	▲ 30.8	▲ 29.0	▲ 31.2	▲ 30.0 (▲ 17.4)
製造	▲ 14.9	▲ 21.8	▲ 22.8	▲ 21.9	▲ 22.9	▲ 25.6	▲ 23.9 (▲ 13.9)
卸売	▲ 12.2	▲ 19.4	▲ 19.3	▲ 18.1	▲ 16.3	▲ 20.3	▲ 17.2 (▲ 9.3)
小売	▲ 7.5	▲ 8.3	▲ 5.2	▲ 4.0	▲ 5.8	▲ 8.4	▲ 8.3 (▲ 10.7)
サービス	▲ 6.1	▲ 5.4	▲ 6.3	▲ 6.3	▲ 10.2	▲ 7.3	▲ 7.3 (▲ 3.2)

D I = (不足の回答割合) - (過剰の回答割合)

【前年同月比D I】 サービス業を除く全業種で過剰超感が強まる。

【先行き見通しD I】 小売業を除く全業種で、昨年同時期に比べて過剰超感が強まる見通し。

【平成13年10月の景気キーワード】

○ 先行き不透明感

引き続き、先行きの業況に関する不透明感や先行きへの不安に関する指摘が多く寄せられている。建設業からは、「公共工事・民間工事とも受注量の大幅減少が続いている」（いわき・管工事）、「明るい材料なし。年末や春先についても仕事の増加は見込めない状況」（川崎・一般工事）などの声が寄せられている。製造業からは、「9月以降、急激に売上減少。先行き全く不透明」（松任・通信機械器具製造）、「米国のテロの影響により、北米向け輸出が減少」（市川・時計・同部分品製造）、「テロ以降、商談の数自体が減っている」（青梅・産業用電気機械製造）、「部品関係の受注が減少。単価引き下げ要求により、採算の厳しさが増している」（倉敷・一般産業用機械製造）など、厳しい声が多く寄せられている。また、卸売業・小売業・サービス業からは、「国内外の複合不況により、一層停滞感が強まる」（一宮・繊維品卸）、「企業業績の下方修正が相次ぎ、給与・ボーナスへの影響が予想される」（京都・百貨店）、「設備投資の減少により、料率の値崩れがおき、採算が悪化傾向」（京都・各種物品賃貸）などの声が寄せられている。

○ 狂牛病問題

9月10日に、農林水産省が「狂牛病に感染した恐れのある牛1頭を国内で初めて確認した」と発表して以来、国内で狂牛病問題が一気に表面化した。今月調査では、この狂牛病に関して、多くのコメントが寄せられている。「狂牛病の影響は大きいものの、豚・鶏肉が増加して全体の売上は確保」（松阪・百貨店）、「狂牛病の問い合わせは多少あるが、売上には直接響いていない」（帯広・食堂、レストラン）といった声も一部あるが、「乳製品・ゼラチン等を使っている商品の買い控えも見られる」（秋田・パン・菓子製造）などの食品メーカーからの指摘のほか、「狂牛病の影響で出荷が止まった状態」（松原・総合卸）、「焼肉関連の野菜取引が激減」（豊田・農畜産水産物卸）、「精肉売上げ大幅ダウン」（酒田・百貨店）、「鶏肉、豚肉が高騰」（石岡・商店街）、「一番安定していた食品の売上が全般に下がり始めた」（小牧・各種商品小売）、「特に焼肉店は来客数が大幅減」（福山・食堂・レストラン）といった声が、卸売業・小売業・サービス業から多く寄せられている。

○ 倒産・廃業

今月についても、長引く低迷や先行き見通しが厳しい影響から、倒産や廃業についてのコメントが多く寄せられた。「組合員企業が破産申請。主要半導体装置の受注が激減し、先行きが全く見えない」（北上・電気機器製造）、「業況低迷し、破産業者も出てきている」（和歌山・家具製造）、「マイカル民事再生法申請に伴い日用雑貨卸が倒産」（大阪・工業用プラスチック製品製造）、「紙販売業では、取引先の倒産等が相次ぎ、売掛金回収に問題が発生」（前橋・衣服・日用品卸）、「大手チェーン飲食店の出店により、地元の小規模飲食店に廃業が目立つ」（町田・商店街）、「特に長年経営していた店を中心に、採算悪化から廃業する店が多くなってきた」（福島・酒場、ビアホール）などの指摘が寄せられている。

【景気キーワードの推移】

年 月	景気キーワード		
13年 8月	先行き不透明感	倒産・廃業	
13年 9月	先行き不透明感	倒産・廃業	
13年10月	先行き不透明感	狂牛病問題	倒産・廃業

※景気キーワードは、調査対象組合の各月におけるトピック・関心事項などに関する自由回答をまとめたもの。

(参考)

【産業別概況】

産 業	概 況
建 設	業況・売上DIは2ヵ月連続、採算DIは3ヵ月連続で、前月水準に比べてマイナス幅が拡大している。一部で「公共工事の追加発注がある」（一般工事）との声もあるが、「公共工事・民間工事とも受注量の大幅減少が続いている。競合が厳しく、採算面においても大変深刻」（管工事）、「仕事を取ることができても採算が合わない」（一般工事）といった、採算面の悪化が改善されない状況を訴えるコメントや、「明るい材料なし。年末や春先についても仕事の増加は見込めない状況」（一般工事）といった、先行き見通しへの不安についてのコメントが多く寄せられている。
製 造	業況DIは9ヵ月連続してマイナス幅が拡大し、一旦縮小ののち、再び2ヵ月連続で拡大した。また、売上DIは5ヵ月連続、採算DIは12ヵ月連続のマイナス幅拡大となっている。IT関連を中心に、「9月以降、急激に売上減少。先行き全く不透明」（通信機械器具製造）、「雇用への影響が出てきている」（電子部品製造）、「米国のテロの影響により、北米向け輸出が減少」（時計・同部分品製造）、「テロ以降、商談の数自体が減っている」（産業用電気機械製造）など、厳しいコメントが多く寄せられたほか、「中国の鋳物業界の輸出攻勢は、数量的はもちろん、価格面でも大きな影響を及ぼし、転廃業する組合員が増加」（鉄素形材製造）、「外国製品増加により、国内向けの生産・販売が低迷」（金物類製造）といった外国製品との競合や、「仕事があっても、取引先の値引要求が強くなり、採算割れになる」（金属加工機械製造）といった採算面の厳しさを訴える声が多く寄せられている。
卸 売	業況・売上・採算DIとも、前月のマイナス幅縮小から反転し、前月水準に比べてマイナス幅が大幅に拡大している。「狂牛病の影響で出荷が止まった状態」（総合卸）、「狂牛病の影響により焼肉関連の野菜取引が激減」（農畜産水産物卸）といった狂牛病問題に係るコメントが多く寄せられたほか、「建設関係資材の販売不振により、臨時・パート従業員に過剰感強まる」（総合卸）、「紙販売業で取引先の倒産等が相次ぎ、売掛金回収の問題が発生」（衣服・日用品卸）、「高齢化・後継者難等による閉店の加速、市場の遠隔地化による効率性の低下、採算性の悪化」（総合卸）との指摘もあった。
小 売	業況・売上DIとも前月まで2ヵ月連続でマイナス幅が拡大したが、今月はそれぞれ前月と同水準となった。また、採算DIは2ヵ月ぶりにマイナス幅が拡大している。前月に引き続き、「気温低下により秋冬物衣料が好調」との声がある一方で、販売価格や客単価の低下、近隣大型店の影響による売上減などの指摘や、「一番安定していた食品の売上が、狂牛病の影響から全般に下がり始めた」（各種商品小売）といった狂牛病の影響を訴える声もあった。
サービス	業況・売上・採算DIとも、前月の大幅なマイナス幅拡大から反転し、前月水準に比べてマイナス幅が縮小している。「設備投資の減少により、料率の値崩れがおき、採算が悪化傾向」（各種物品賃貸）、「派遣需要の冷え込みが広がる気配」（人材派遣）、「狂牛病問題により、特に焼肉店等は、来客数の大幅減で経営状態が厳しい」（食堂・レストラン）とのコメントが寄せられる一方で、「紅葉シーズンになり、平日でも前年度より入込み客数が多い」（旅館）、「海外旅行の手控えにより、国内旅行客が増加」（旅館、食堂・レストラン）といった声も多く寄せられた。

(参考)

【ブロック別概況】

○ ブロック別の業況DI（前年同月比ベース）を見ると、全産業合計では全ブロックとも引き続きマイナス水準での推移となっている。ブロック別に見ると、北海道、東北、関東、四国の各ブロックで、前月水準に比べてマイナス幅が縮小し、その他の各ブロックでマイナス幅が拡大している。

○ ブロック別の向こう3ヵ月（11月～1月）の業況の先行き見通しは、全産業合計では、引き続きマイナス水準。また、全ブロックにおいて、昨年同時期の先行き見通しに比べて非常に厳しい見方となっている。

ブロック別・全産業業況DI（前年同月比）の推移

	13年						先行き見通し 11～1月
	5月	6月	7月	8月	9月	10月	
全 国	▲ 48.3	▲ 53.0	▲ 52.0	▲ 54.2	▲ 58.2	▲ 59.0	▲ 52.2 (▲ 29.2)
北 海 道	▲ 43.5	▲ 39.8	▲ 44.4	▲ 40.3	▲ 44.3	▲ 39.7	▲ 40.9 (▲ 32.8)
東 北	▲ 50.0	▲ 54.0	▲ 53.7	▲ 58.0	▲ 60.3	▲ 59.6	▲ 55.6 (▲ 32.1)
北陸信越	▲ 43.5	▲ 52.5	▲ 58.0	▲ 52.2	▲ 57.1	▲ 62.0	▲ 53.2 (▲ 29.2)
関 東	▲ 39.5	▲ 50.9	▲ 48.4	▲ 50.6	▲ 55.8	▲ 54.8	▲ 44.7 (▲ 26.0)
東 海	▲ 49.1	▲ 57.6	▲ 46.3	▲ 57.4	▲ 57.5	▲ 63.8	▲ 54.0 (▲ 30.8)
近 畿	▲ 60.3	▲ 58.4	▲ 56.8	▲ 64.1	▲ 61.8	▲ 65.8	▲ 67.9 (▲ 30.4)
中 国	▲ 54.2	▲ 58.8	▲ 54.6	▲ 57.5	▲ 63.8	▲ 64.1	▲ 57.5 (▲ 31.6)
四 国	▲ 57.4	▲ 54.9	▲ 63.7	▲ 57.9	▲ 69.2	▲ 65.2	▲ 50.0 (▲ 31.5)
九 州	▲ 47.2	▲ 48.7	▲ 48.2	▲ 49.7	▲ 56.1	▲ 58.6	▲ 47.8 (▲ 25.5)

